棚田の保全に20万円

ＪＡ岐阜信連、恵那市へ寄付

棚田の保全活動を支援する県信用農業協同組合連合会（ＪＡ岐阜信連）は12日、坂折棚田整備事業に取り組む恵那市に20万円を寄付した。市役所でＪＡ岐阜信連の渡邉茂典代表理事理事長が、小坂喬峰市長に寄付目録を手渡した。

ＪＡ岐阜信連は、自然環境や農村景観の維持など多面的な機能がある棚田の保全活動を支援。国連が示す持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の取り組みの一つとして進め、棚田を保全する動きを支えるため、同市の企業版ふるさと納税を活用して寄付をした。

坂折棚田整備事業では、耕作放棄地の再整備を行い、柿やユズの木を植え、棚田の景観保全と農地の有効活用を図っている。渡邉代表理事理事長は「棚田を未来に残し、つなげていくことが重要」と話した。小坂市長は「地域の方々にも喜ばしいニュースであり、頂いた寄付金で支援していく」と礼を述べた。（服部潤）

小坂喬峰市長に寄付目録を手渡した渡邉茂典代表理事理事長（右）＝恵那市役所

無断複製・転載を禁じます